

表紙のことば

「玉手御前のかしらによせて」

池田陽子

魂を持たない人形を研究のテーマに決めてカメラを向け、気がつけば40年以上の月日が流れている。東京、大阪を中心に各地での写真展開催、何冊かの写真集の出版が結果として残せたが、未だやり残した仕事があると痛感している。使用した写真は「摂州合邦辻」の玉手御前のかしらである。楽屋に置かれた人形の静かな佇まいに衝かれるようにシャッターを切った中の一枚。この玉手が人形遣い吉田簀助師匠によって舞台上で生きる姿を想像しながら。今後も撮影を続けられたら幸いと思うが一区切りとして平成21年5月に個展を予定している。